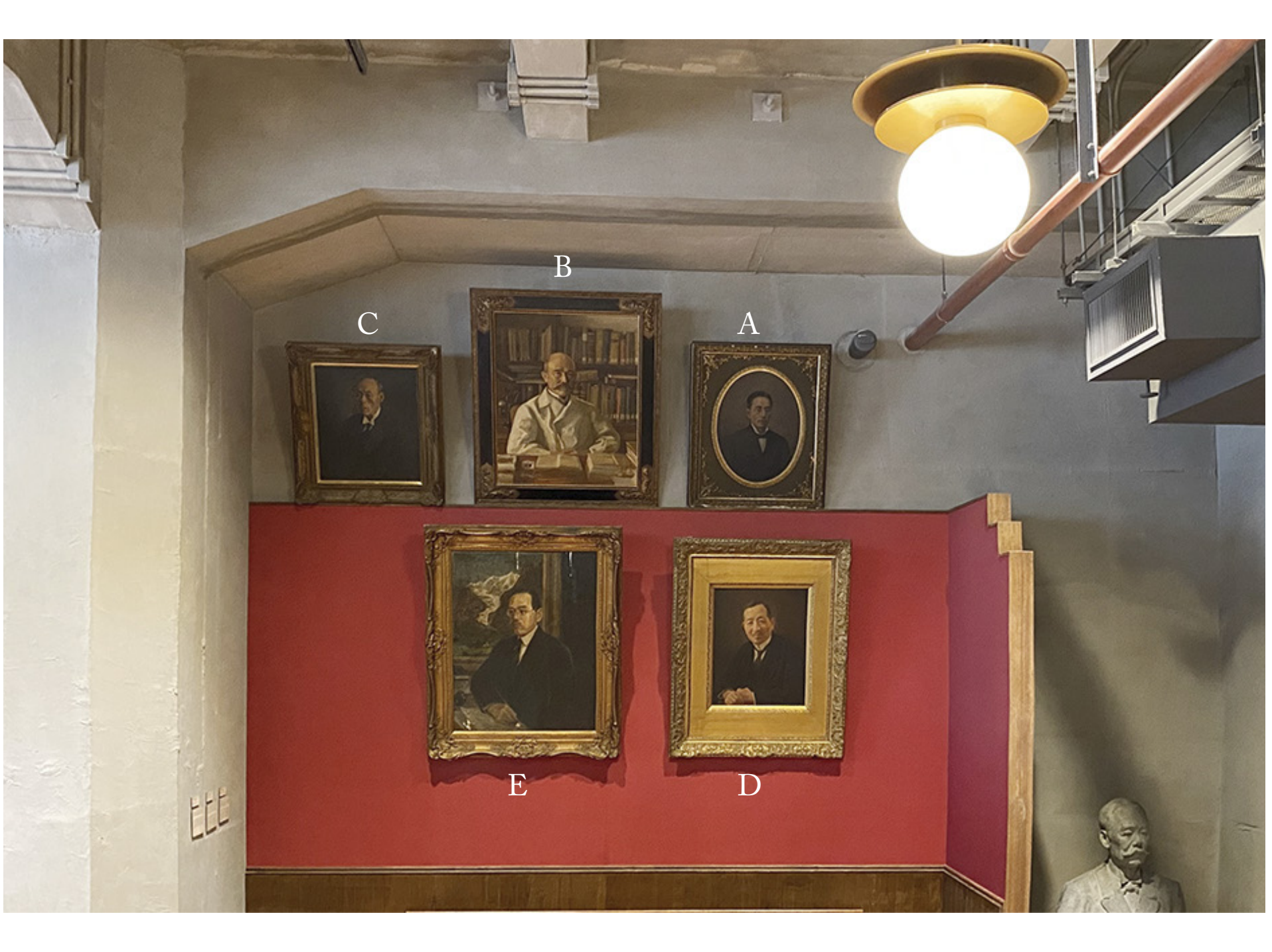
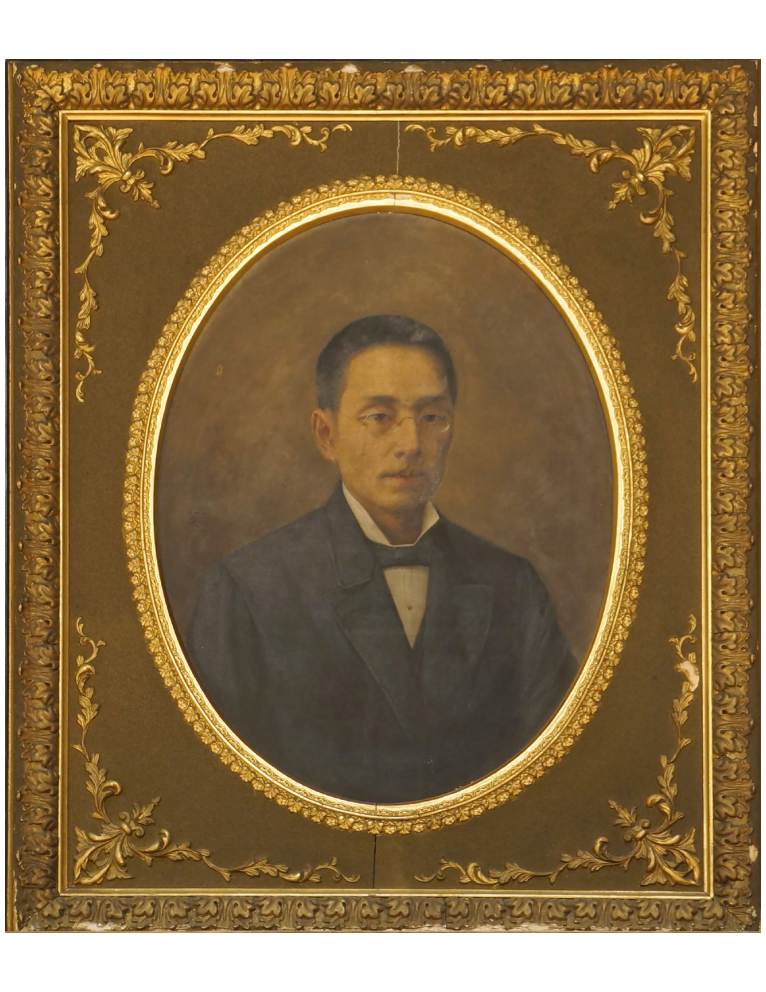


A　原田豊吉
B　林春雄
C　田中茂穂
D　真鍋嘉一郎
E　呉建

A



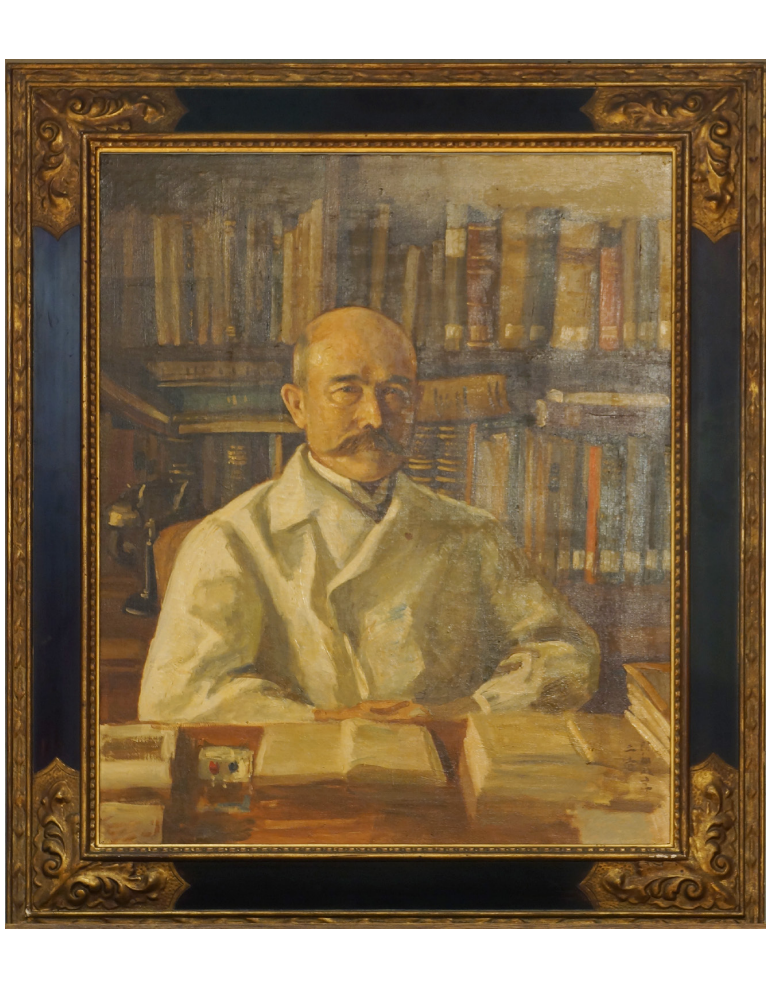
作者未詳「原田豊吉像」

年代未詳／布に油彩／東京大学総合研究博物館研究部所蔵

原田豊吉（1860–1894）は理学部地質学教授。弟は洋画家の原田直次郎。15 歳でドイツに留学、フライブルク鉱山学校を卒業。ハイデルベルク大学で岩石学を、ミュンヘン大学で古生物学を学び、ルガノ湖畔の噴出岩研究で学位を取得、オーストリア地質調査所に勤めた。1883（明治 16）年に帰国、農商務省地質調査所に入り、翌年東京大学教授を兼任、日本人最初の地質学教授となる。『日本地質構造論』（1888 年）や『日本群島』（1890 年）を著した。

IMTJ_UT0000198

B



和田三造作「林春雄像」

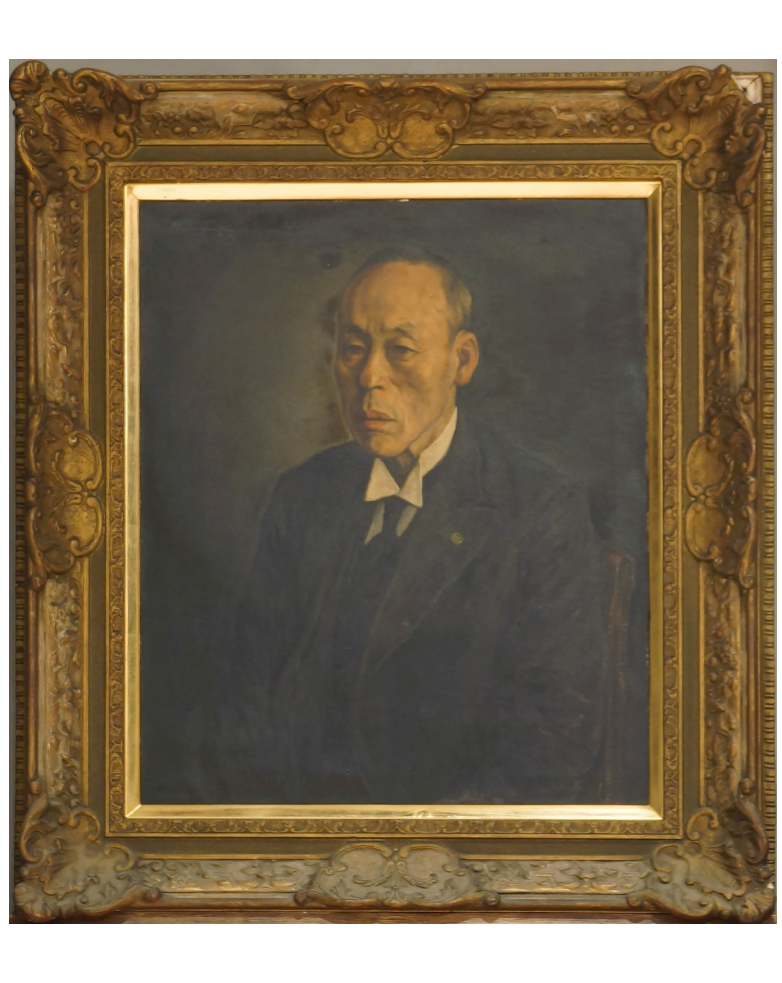
1933（昭和 8）年／布に油彩／東京大学医学部薬理学教室旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の林春雄（1874–1952）は医学部薬理学教室の二代教授。1897（明治 30）年に東京帝国大学医科大学を卒業後、ドイツに留学。帰国後、京都帝国大学福岡医科大学に勤務していたが、1908（明治 41）年東京帝国大学医科大学に第二講座が設けられると、転じて担任となった。翌年教授となり、1934（昭和 9）年まで在職。

作者の和田三造（1883–1967）は洋画家の黒田清輝に師事し、東京美術学校西洋画選科に学ぶ。1907（明治 40）年の第一回文展に「南風」を出品し、一躍注目された。1932（昭和 7）年に東京美術学校図案科の教授となる。

IMTJ_UT0000204

C



谷山知生作「田中茂穂像」

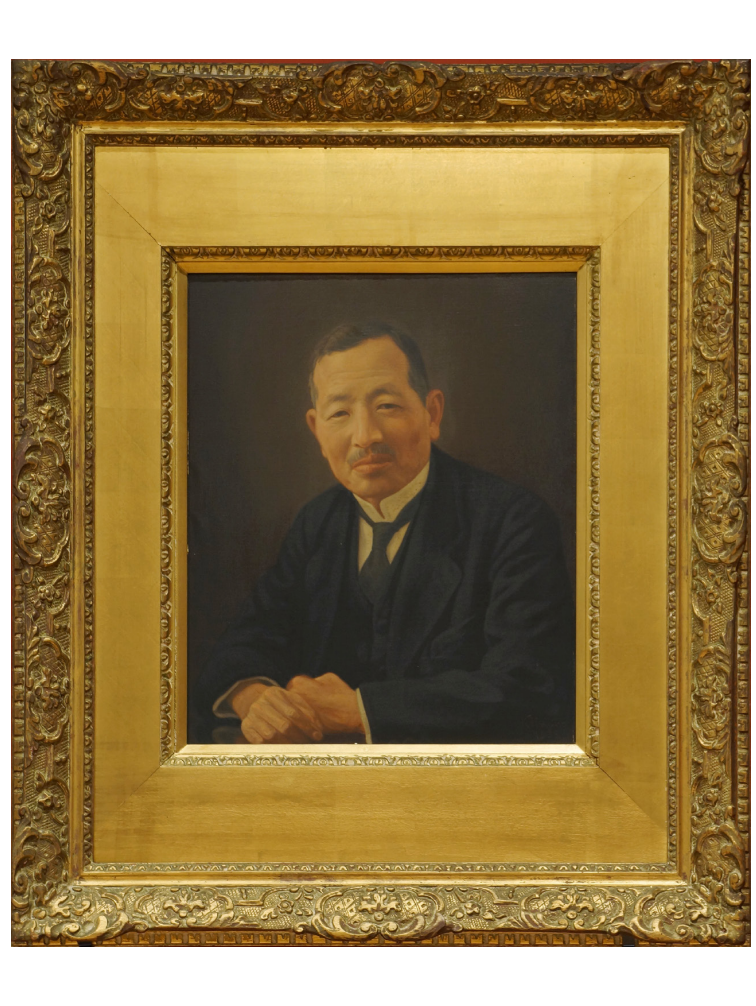
年代未詳／布に油彩／東京大学理学部動物学教室旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の田中茂穂（1878–1974）は理学部動物学教室の八代教授。1904（明治 37）年に東京帝国大学理科大学動物学科卒業。スタンフォード大学のジョルダンらとの共著『日本産魚類目録』（1913 年）で、日本産魚類を初めて系統的に分類した。1926（大正 15）年から一年間スタンフォード大学へ留学。その後、七代教授谷津直秀の下で助教授を務め、脊椎動物学を講じた。1938（昭和 13）年に教授兼三崎臨海実験所長となり、翌年退官した。

作者の谷山知生については不詳。画面左上に「Taniyama 知生」のサインがある。

IMTJ_UT0000193

D



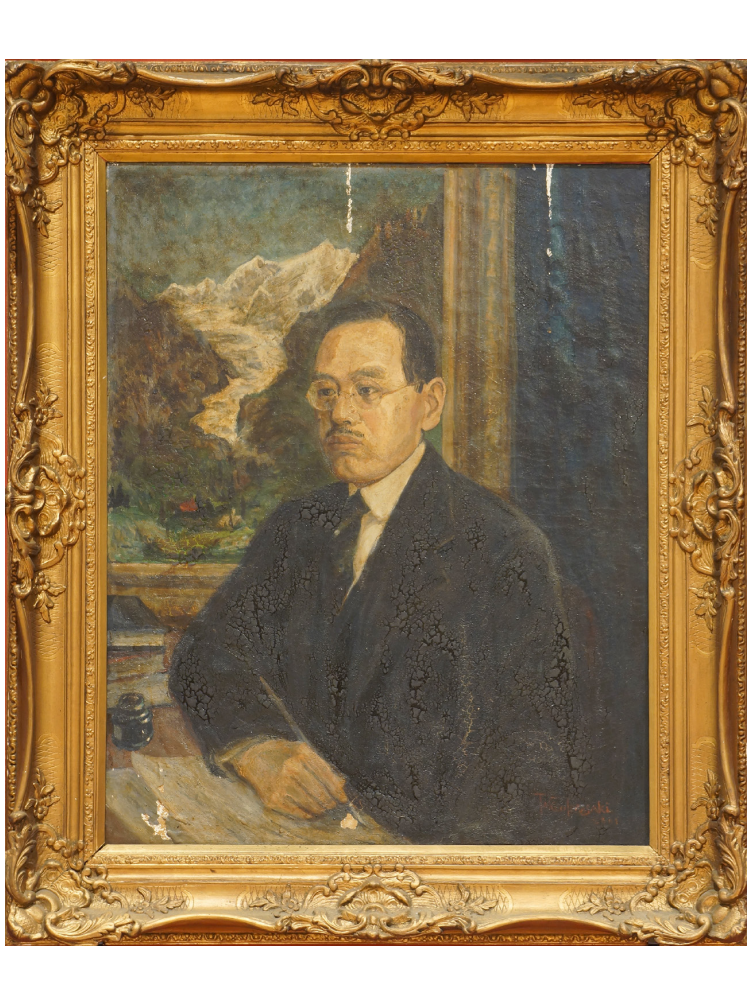
作者未詳「真鍋嘉一郎像」

1933（昭和 8）年／布に油彩／東京大学医学部附属病院旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

真鍋嘉一郎（1878–1941）は医学部内科物理療法学講座の教授。1904（明治 37）年に東京帝国大学医科大学卒業。1911（明治 44）年にドイツへ留学、物理療法を研究した。1926（大正 15）年から 1938（昭和 13）年まで医学部内科物理療法学講座教授を務めた。日本のレントゲン学、温泉療法の先駆者。消化器疾患・肝疾患の研究、アミノ酸化学・血清学・アレルギーなどの研究業績もある。

IMTJ_UH0000010

E



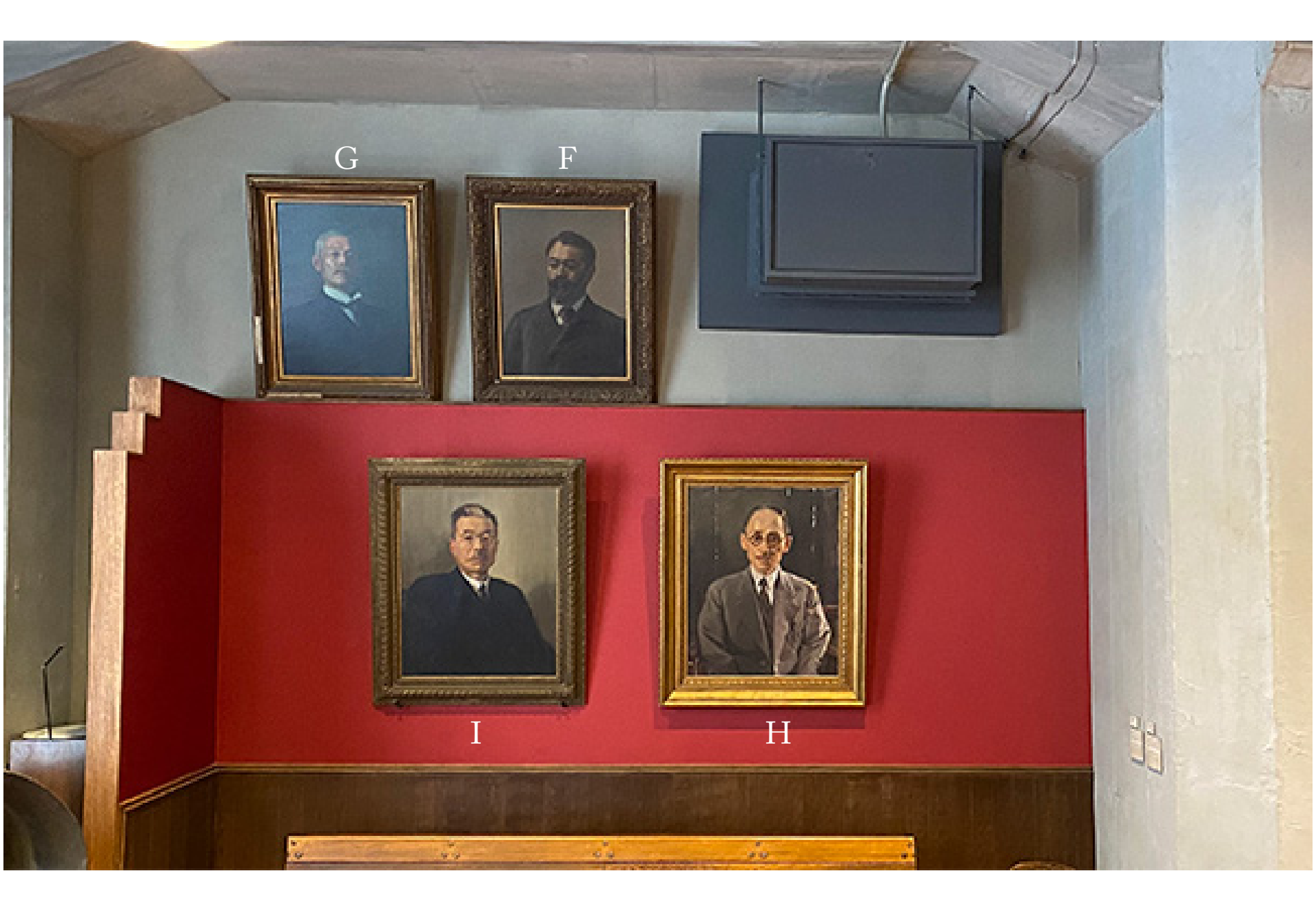
寺崎武男作「呉建像」

1941（昭和 16）年／布に油彩／東京大学医学部附属病院旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の呉建（1883–1940）は医学部内科学講座の教授。統計学者呉文聡の長男として生まれ、曽祖父に蘭学者箕作阮甫、叔父に精神科医呉秀三がいる。九州帝国大学教授を経て、1925（大正 14）年に東京帝国大学教授となり、内科学講座を担当した。自律神経に関する研究を行い、心電図を導入して循環器病学の発展に尽くした。

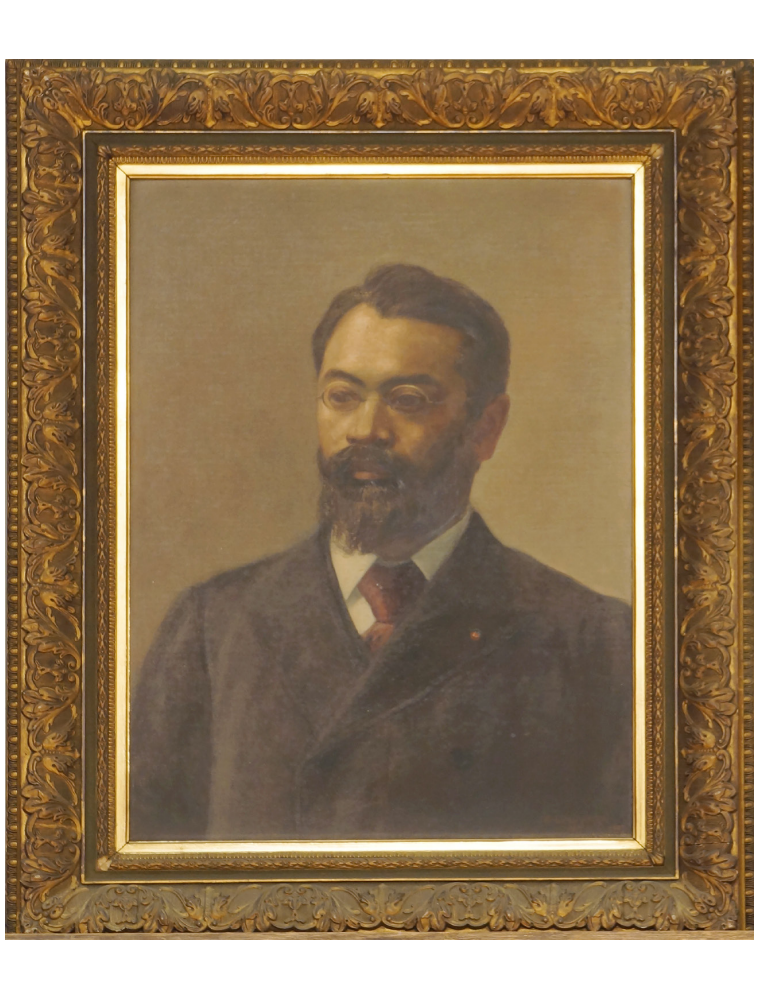
作者の寺崎武男（1883–1967）は 1907（明治 40）年に東京美術学校西洋画科卒業後、農商務省実業補習生としてイタリアへ留学、エッチングを学んだ。1916（大正 5）年に帰国し、1918（大正 7）年に山本鼎らと日本創作版画協会を設立した。

IMTJ_UH0000011



F　箕作佳吉
G　飯島魁
H　坂口康蔵
I　柿沼昊作

F



長原孝太郎作「箕作佳吉像」

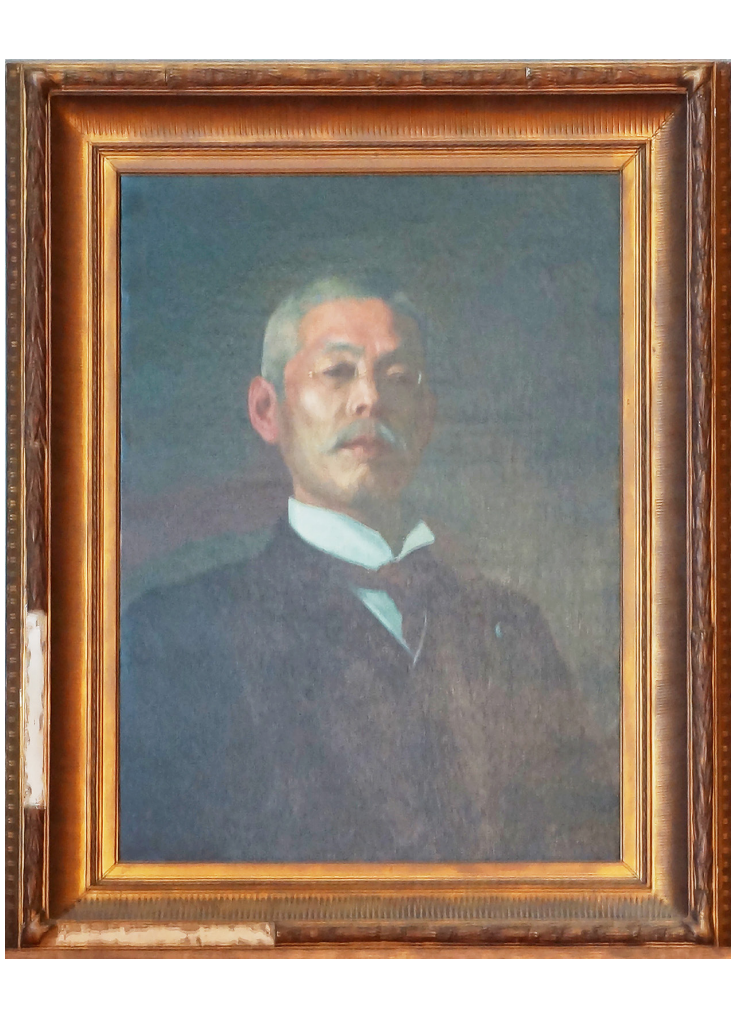
1907（明治 40）年／布に油彩／東京大学理学部動物学教室旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の箕作佳吉（1858–1909）は理学部動物学教室の三代教授。慶應義塾、次いで大学南校に学び、1873（明治 6）年に 16 歳で渡米、イェール大学を卒業。さらにジョンズ・ホプキンス大学で動物学を専攻、海産動物を研究の対象とした。その後イギリスに渡り、脊椎動物発生学を学んだ。1881（明治 14）年に帰国、翌年から 1909（明治 42）年まで動物学教室の教授を務めた。

作者の長原孝太郎（1864–1930）は白馬会、文展で活躍した画家。1889（明治 22）年から 1899（明治 32）年まで、動物学教室で標本写生の仕事に従事した。1898（明治 31）年に東京美術学校の助教授となった。

IMTJ0000189

G



岡精一作「飯島魁像」

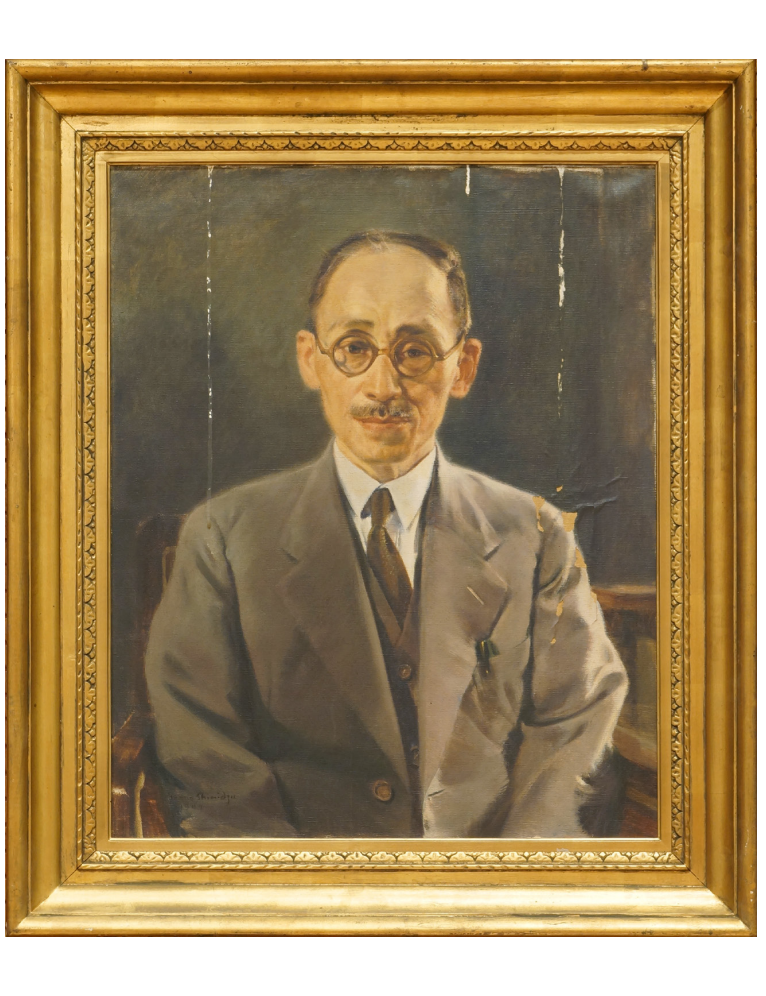
1911（明治 44）年／布に油彩／東京大学理学部動物学教室旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の飯島魁（1861–1921）は理学部動物学教室の四代教授。1877（明治 10）年に発足した東京大学理学部生物学科の第一回卒業生であり、モースとホイットマンの両方の教えを受けた。卒業後、ドイツに留学し、1885（明治 18）年に教授となる。1893（明治 26）年からは、日本の動物学草創期をともに支えた箕作佳吉が第一講座を、飯島が第二講座を担任した。

作者の岡精一（1868–1944）は明治美術会、太平洋画会で活躍した画家。洋画家の浅井忠、本多錦吉郎、小山正太郎に師事した。1900（明治 33）年に渡米、さらにフランスに移り、ジャン・ポール・ローランスに学んだ。

IMTJ_UT0000194

H



清水良雄作「坂口康蔵像」

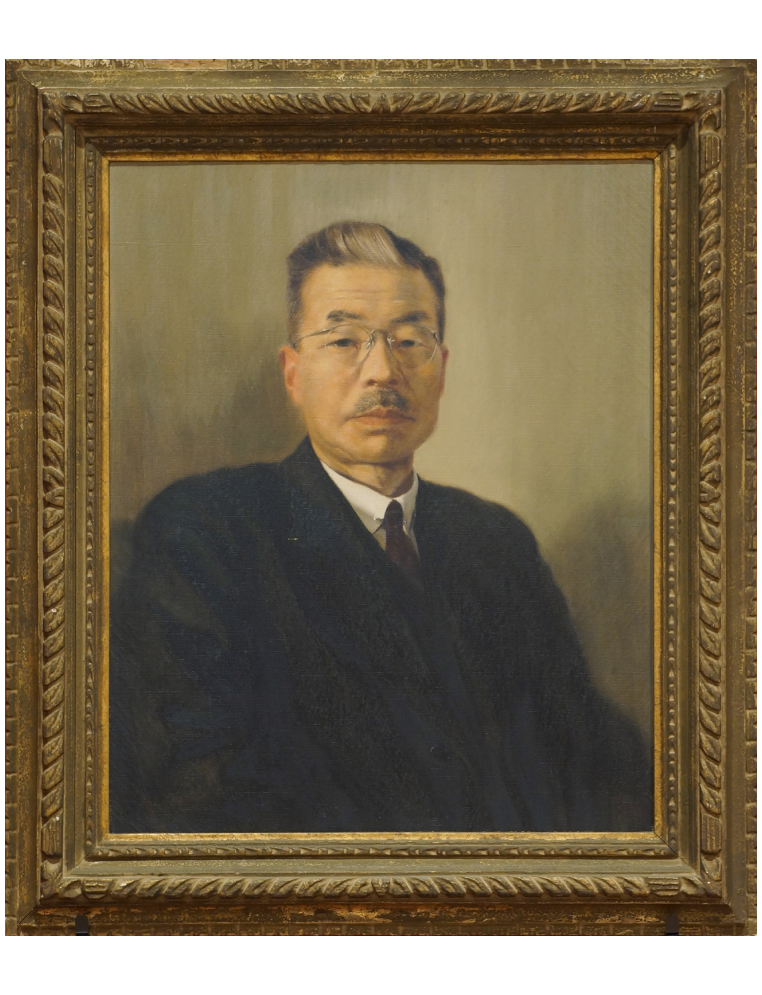
1947（昭和 22）年／布に油彩／東京大学医学部附属病院旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の坂口康蔵（1885–1961）は医学部内科学講座の教授。1909（明治 42）年に東京帝国大学卒業。日赤浅草病院長、東京警察病院長を経て、1934（昭和 9）年から 1945（昭和 20）年まで東京帝国大学医学部内科学講座教授。1937（昭和 12）年から 1940（昭和 15）年まで附属医院長、同年から 1942（昭和 17）年まで医学部長。糖尿病診断のための負荷試験として「坂口試験食」を考案した。

作者の清水良雄（1891–1954）は文展、帝展、光風会で活躍した画家。東京美術学校西洋画科卒業。1918（大正 7）年には鈴木三重吉の『赤い鳥』創刊にあたって挿絵を担当、1927（昭和 2）年に武井武雄らと日本童画家協会を結成した。

IMTJ_UH0000013

I



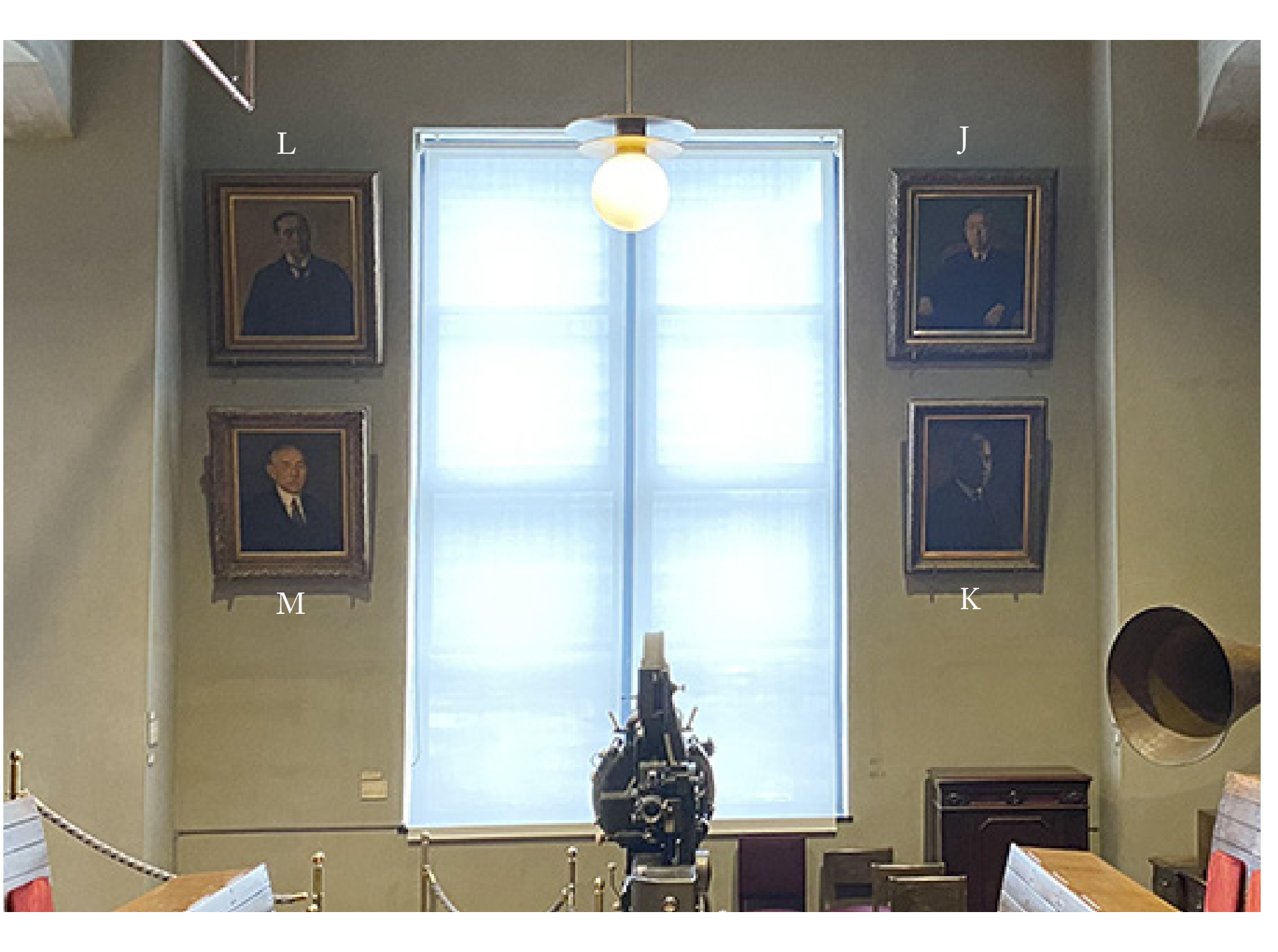
清水良雄作「柿沼昊作像」

1952（昭和 27）年／布に油彩／東京大学医学部附属病院旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の柿沼昊作（1892–1952）は医学部第一内科学講座の教授。1916（大正 5）年に東京帝国大学卒業。岡山医科大学教授より転任し、1937（昭和 12）年より東京帝国大学医学部内科学第一講座教授。1945（昭和 20）年から1947（昭和 22）年附属医院長、1951（昭和 26）年から 1952（昭和 27）年まで医学部長。体温調節、日本脳炎、心不全、消化器病学などの研究に尽力した。

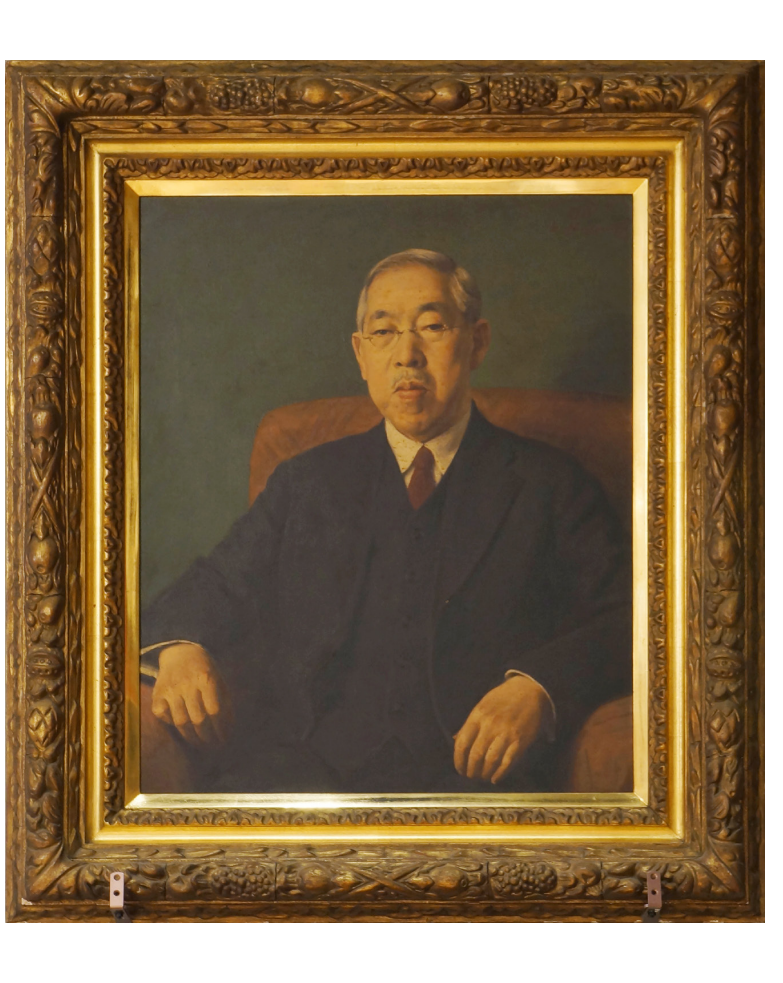
作者の清水良雄（1891–1954）は文展、帝展、光風会で活躍した画家。東京美術学校西洋画科卒業。1918（大正 7）年には鈴木三重吉の『赤い鳥』創刊にあたって挿絵を担当、1927（昭和 2）年に武井武雄らと日本童画家協会を結成した。

IMTJ_UH0000023



J　谷津直秀
K　渡瀬庄三郎
L　五嶋清太郎
M　像主未詳

J



伊原宇三郎作「谷津直秀像」

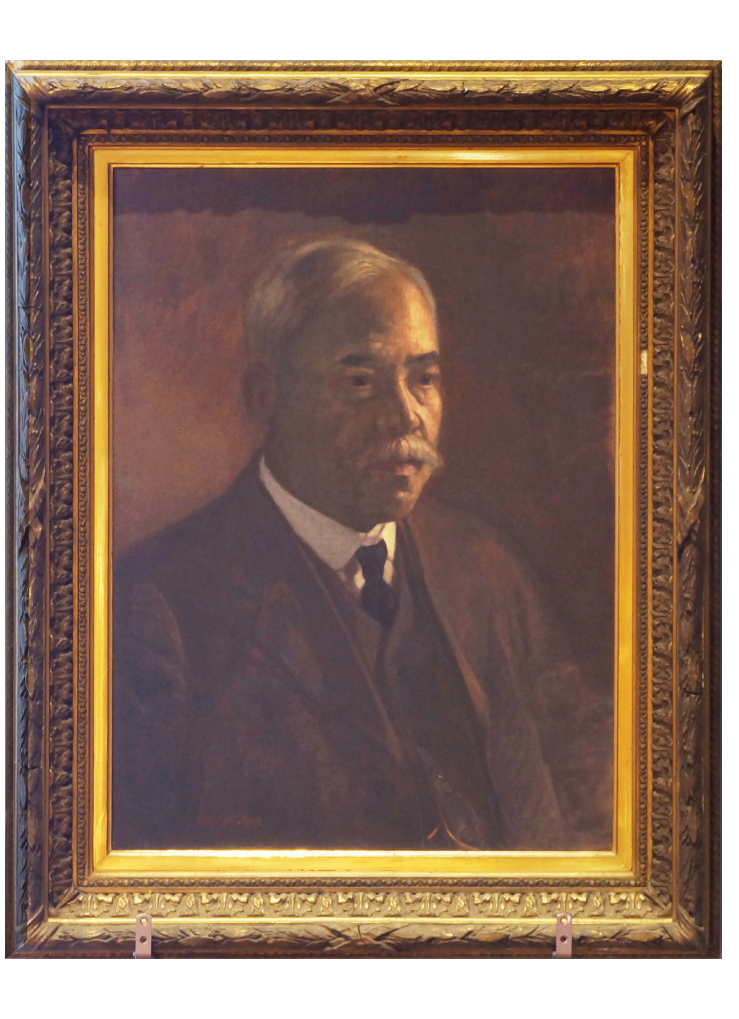
1937（昭和 12）年／布に油彩／東京大学理学部動物学教室旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の谷津直秀（1877–1947）は理学部動物学教室の七代教授。1900（明治 33）年に動物学科を卒業後、米国コロンビア大学でヒモムシの発生、イタリアのナポリ臨海実験所でクシクラゲの研究に従事した。日本動物学発展の基礎を築いた飯島魁の後を継いで、1922（大正 11）年に教授となる。

作者の伊原宇三郎（1894–1976）は東京美術学校西洋画科に学び、洋画家の藤島武二に師事した。1925（大正 14）年にフランスに留学、帰国後、帝展で特選を重ねる。東京美術学校助教授を務めた。

IMTJ_UT0000190

K



岡精一作「渡瀬庄三郎像」

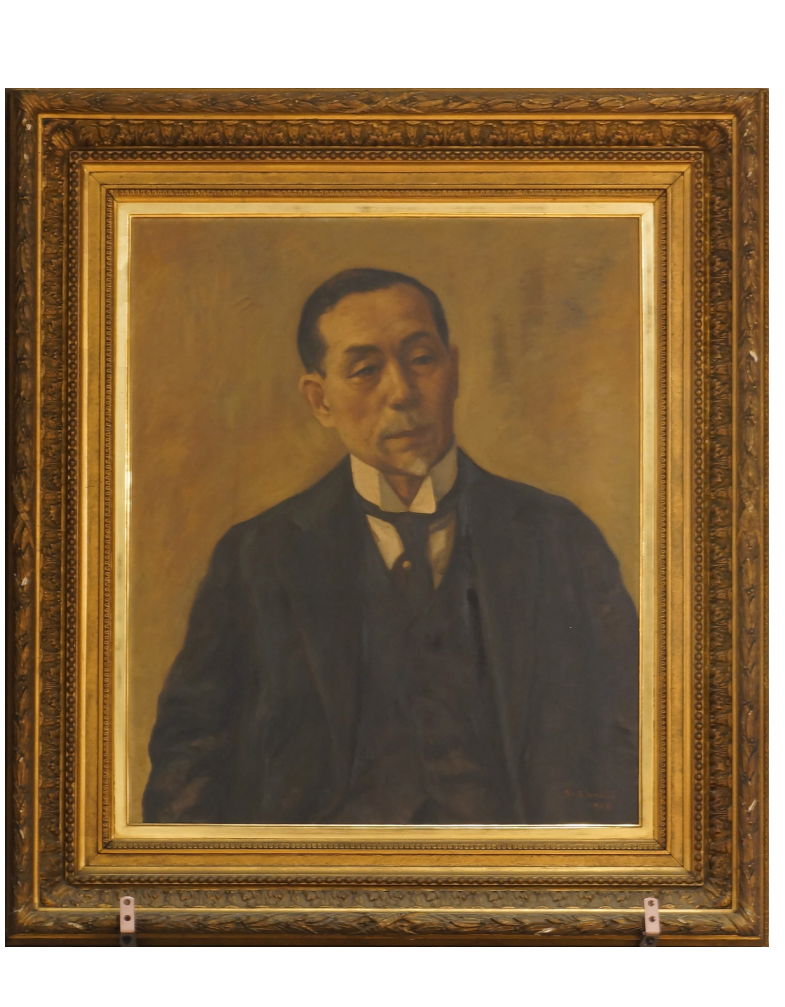
年代未詳／布に油彩／東京大学理学部動物学教室旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の渡瀬庄三郎（1862–1929）は理学部動物学教室の五代教授。日本動物学の草創期を支えた箕作佳吉と飯島魁のもとでセミの発音器と金魚の尾の発生を研究した後、渡米してジョンズ・ホプキンス大学に学び、さらにシカゴ大学で教鞭をとった。帰国後、1901（明治 34）年に動物学第三講座が増設されると、渡瀬が教授となった。

作者の岡精一（1868–1944）は明治美術会、太平洋画会で活躍した画家。洋画家の浅井忠、本多錦吉郎、小山正太郎に師事した。1900（明治 33）年に渡米、さらにフランスに移り、ジャン・ポール・ローランスに学んだ。

IMTJ_UT0000195

L



田辺至作「五嶋清太郎像」

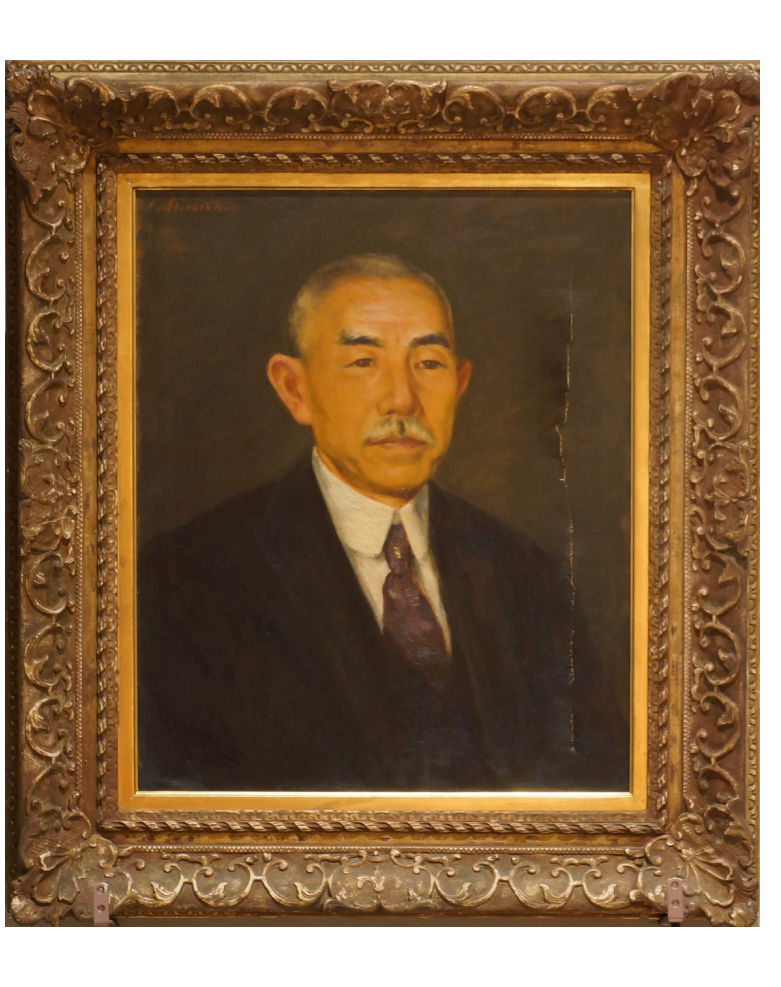
1928（昭和 3）年／布に油彩／東京大学理学部動物学教室旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の五嶋清太郎（1867–1935）は理学部動物学教室の六代教授。日本動物学の草創期を支えた箕作佳吉と飯島魁のもとで寄生虫を研究し、1890（明治 23）年に卒業。その後渡米し、ジョンズ・ホプキンス大学で腔腸動物を、ハーヴァード大学で棘皮動物の発生を研究した。1909（明治 42）年、亡くなった箕作の後を継いで理学部教授となった。

作者の田辺至（1886–1968）は文展、帝展で活躍した画家。哲学者田辺元は兄。東京美術学校西洋画科に入学し、洋画家の黒田清輝に師事。卒業後は同校で永く後進の指導にあたった。

IMTJ_UT0000191

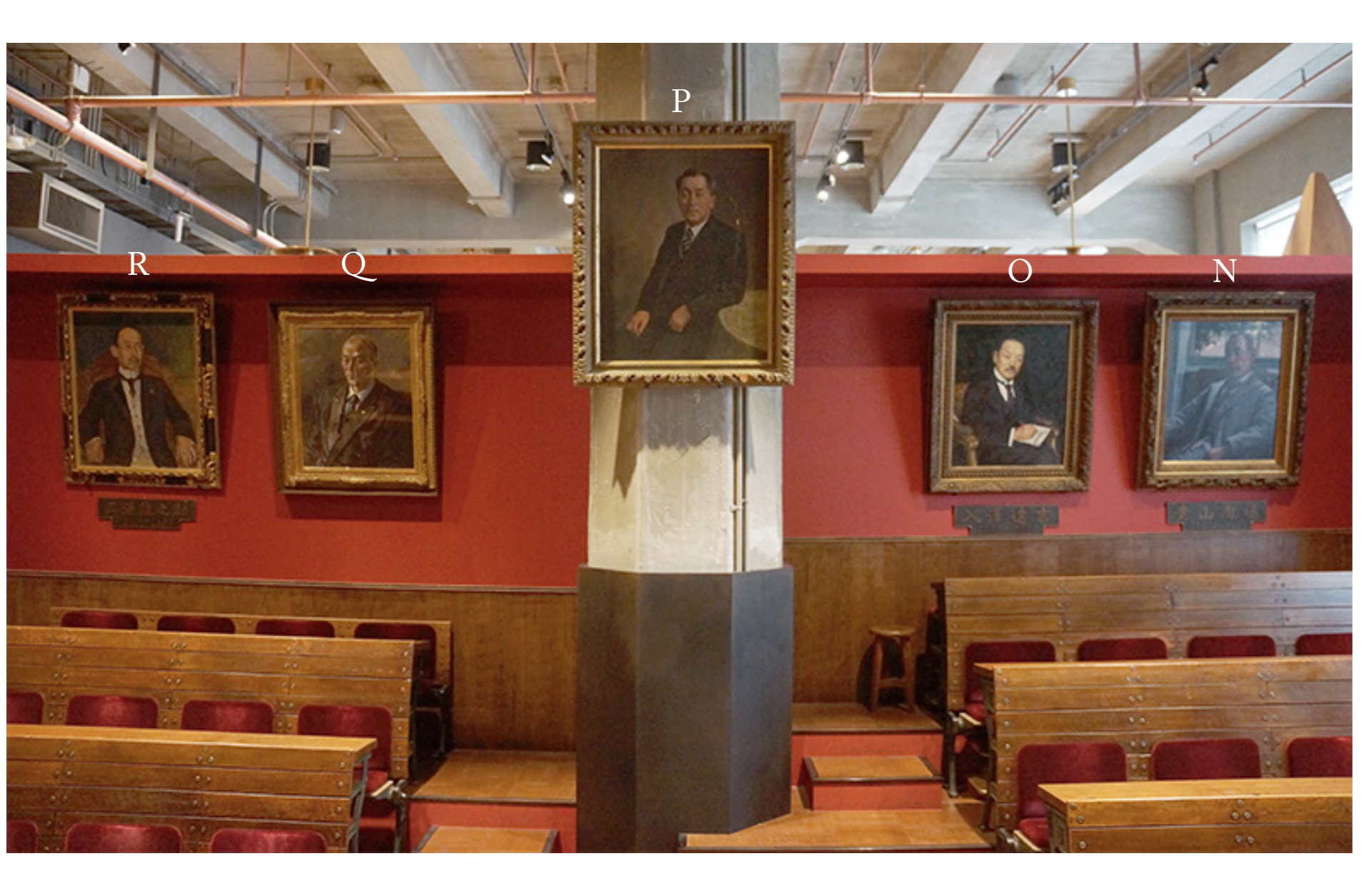
M



作者未詳「像主未詳」

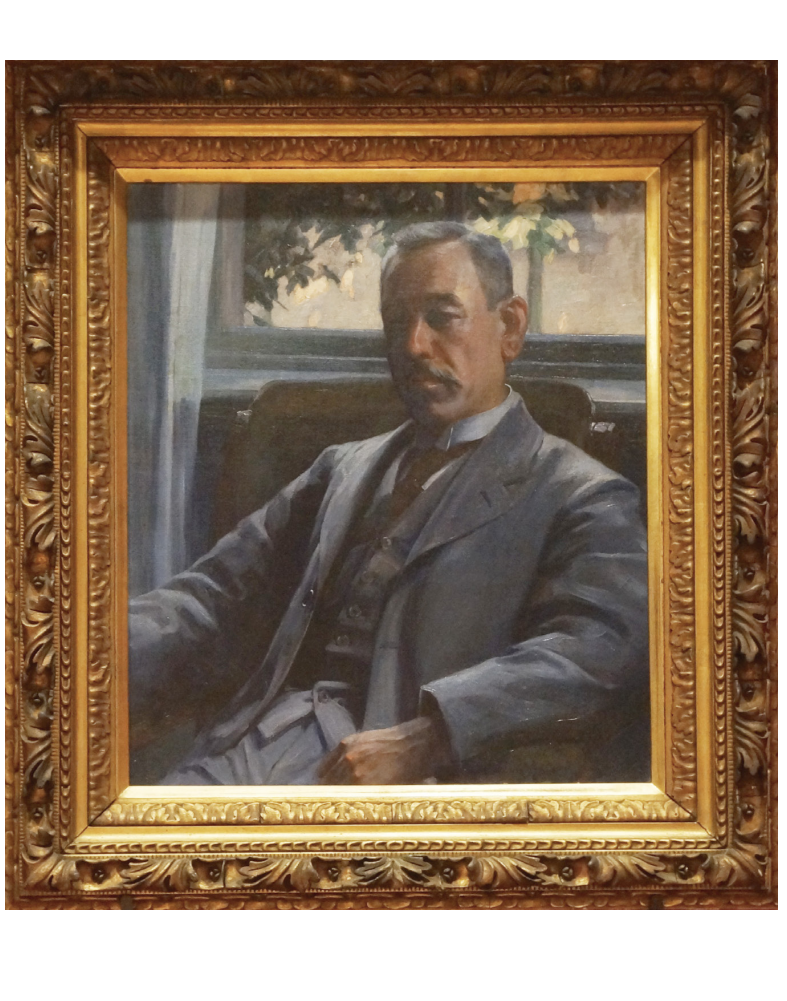
年代未詳／布に油彩／東京大学総合研究博物館研究部所蔵

IMTJ_UT0000192



N　青山胤通
O　入沢達吉
P　三沢敬義
Q　冲中重雄
R　三浦謹之助

N



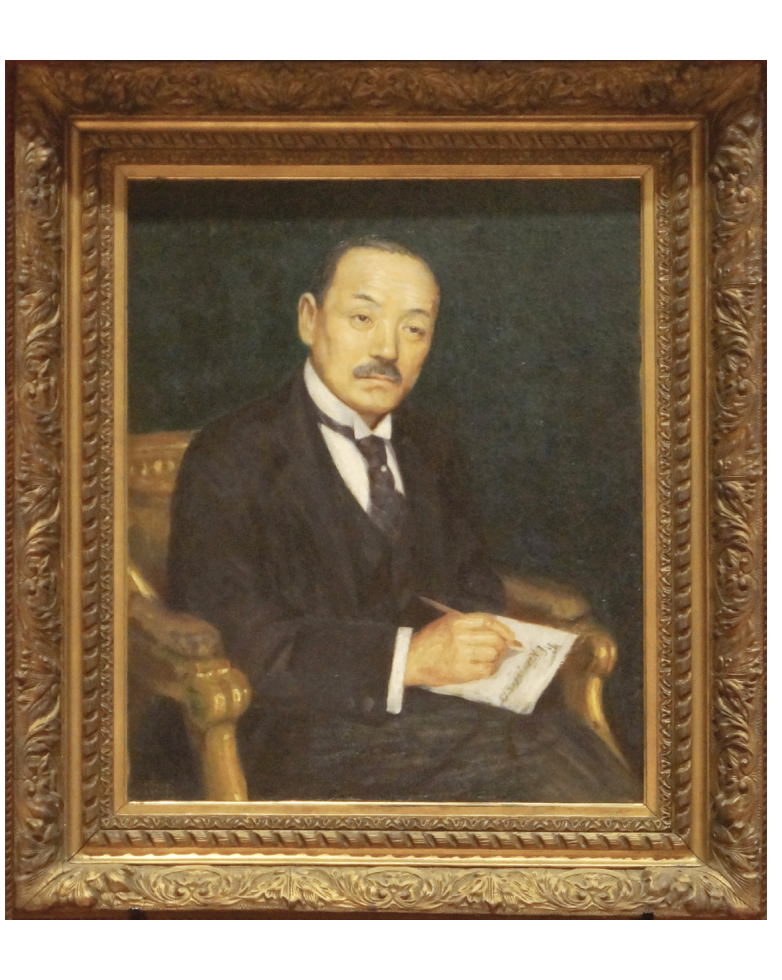
和田英作作「青山胤通像」

1912（大正元）年／布に油彩／東京大学医学部附属病院旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の青山胤通（1859–1917）は、美濃国苗木藩士青山景通の第三子として江戸に生まれる。1869（明治 2）年国学者平田延胤の養子となり、胤通と改名する。1873（明治 6）年大学東校に入学。1882（明治 15）年東京大学医学部を卒業し、ベルツの助手となる。翌年ドイツへ留学し、ルドルフ・ウィルヒョウらに師事した。1887（明治 20）年に帰国し、帝国大学医科大学教授となり内科学講座を担当した。1901（明治 34）年医科大学長。ペストなど感染症や脚気の研究で知られ、教育者としても多くの人材を育てた。
作者の和田英作（1874–1959）は、鹿児島生まれ。原田直次郎、黒田清輝らに師事し、1897（明治 30）年東京美術学校西洋画選科を卒業。同年フランスに留学しラファエル・コランに師事。1900（明治 33）年帰国、東京美術学校教授に就任。第一回文展以来、洋画審査員を務め、1919（大正 8）年帝国美術院会員となった。

IMTJ_UH0000005

O



安田稔作か「入沢達吉像」

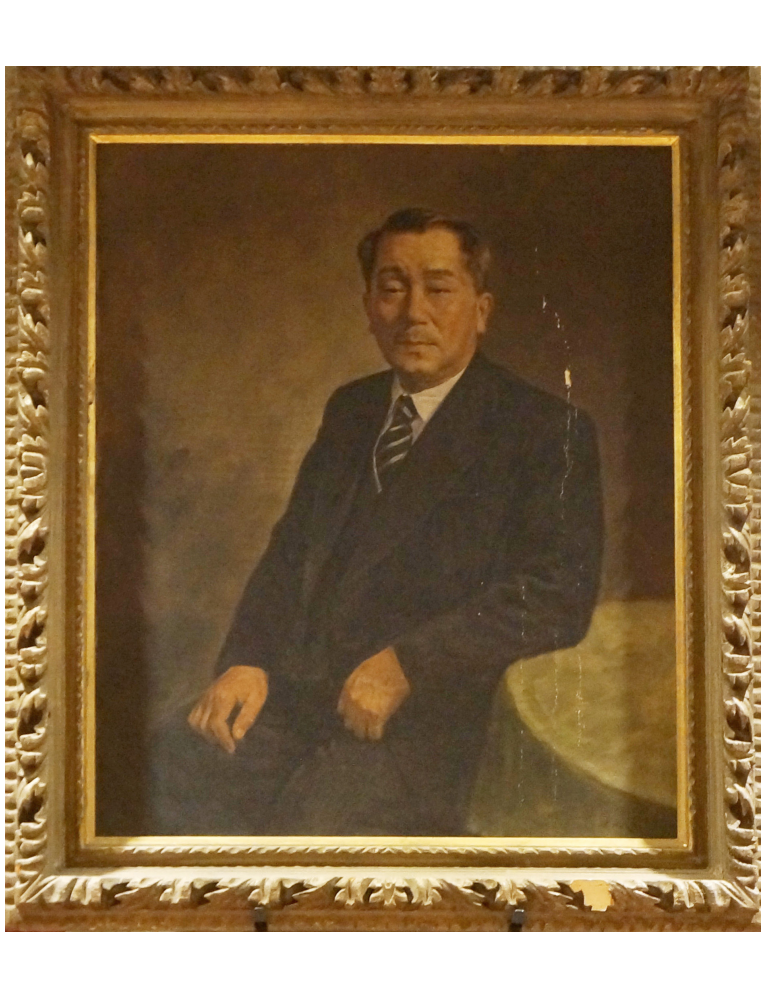
1920 年代か／布に油彩／東京大学医学部附属病院旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の入沢達吉（1865–1938）は越後国（新潟県）生まれ。1889（明治 22）年帝国大学医科大学卒業、ベルツの助手となる。翌年ドイツのストラスブルク・ベルリン両大学に留学し、内科学・病理学を学び、1894（明治 27）年帰国。1901（明治 34）年、東京帝国大学医科大学教授となり、1925（大正 14）年まで内科学講座を担当した。同年名誉教授。レントゲン診断学の確立に尽力し、脚気・寄生虫病はじめ多くの分野に業績がある。

作者と推定される安田稔は 1881（明治 14）年新潟県生まれ。小山正太郎の不同舎に入門後、1903（明治 36）年東京美術学校西洋画科を卒業。ドイツに留学、1911（明治 44）年ミュンヘン美術大学を卒業後、英仏に 2 年間留学。滞英中にロンドンの「アート・ソサイアティ」に出品し、受賞。太平洋画会会員。

IMTJ_UT0000193

P



中村新次郎作「三沢敬義像」

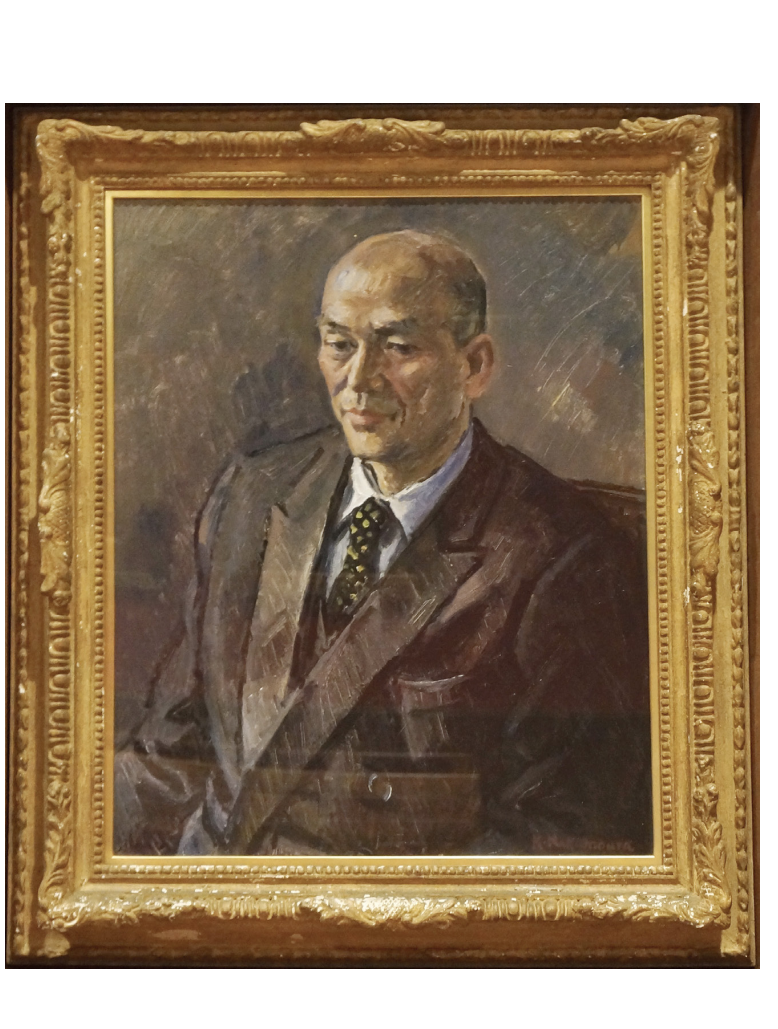
1955（昭和 30）年 3 月／布に油彩／東京大学医学部附属病院旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の三沢敬義（1894–1971）は福島県生まれ。1921（大正 10）年東京帝国大学医学部卒業、1931（昭和 6）年ドイツのハイデルベルク大学に留学、1933（昭和 8）年帰国。同年東京帝国大学医学部講師、翌年助教授、1938（昭和 13）年から 1955（昭和 30）年まで内科物理療法学講座教授。附属分院長、伝染病研究所長を歴任した。退職後は同愛記念病院院長。アレルギー学および温泉医学の研究の発展に寄与した。

作者の中村新次郎（1906–2003）は洋画家。日展会友。1947（昭和 22）年、示現会の創立会員となり、のちに顧問を勤めた。

IMTJ_UH0000022

Q



中村研一作か「冲中重雄像」

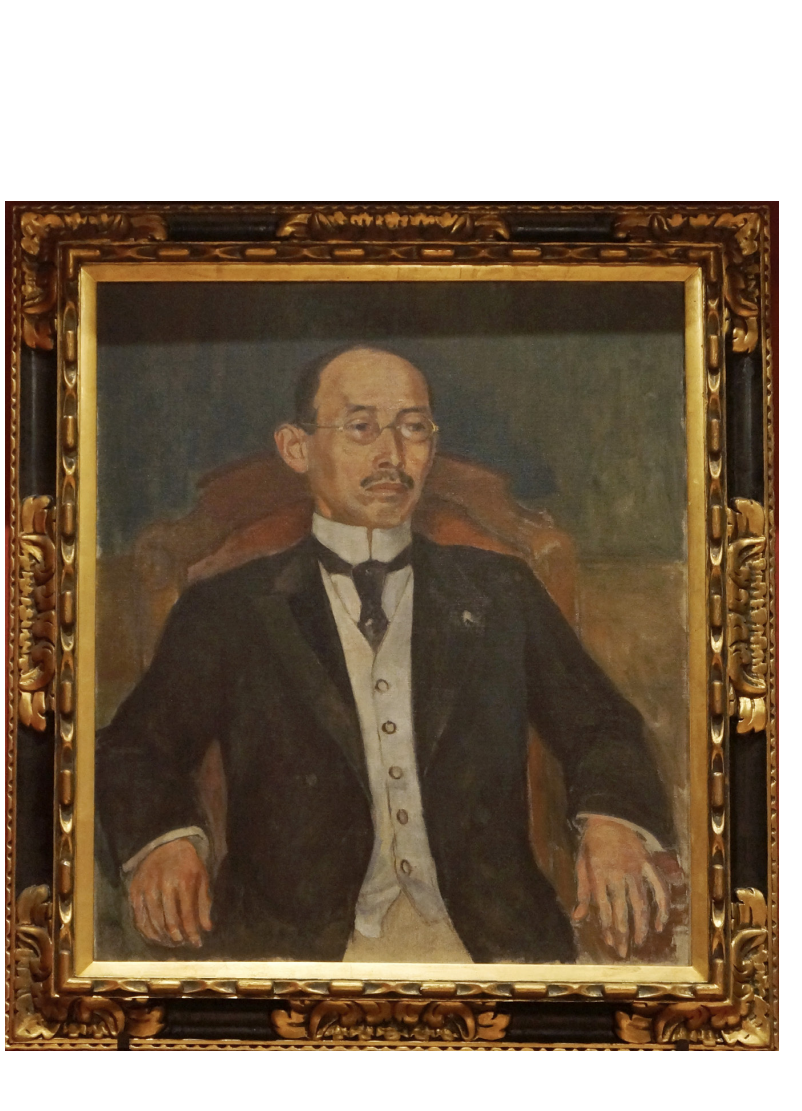
1960 年代か／布に油彩／東京大学医学部附属病院旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の冲中重雄（1902–1992）は石川県生まれ。1928（昭和 3）年東京帝国大学卒業。1946（昭和 21）年より 1968（昭和 43）年まで坂口康蔵の後任として内科学第三講座第四代教授を務める。最終講義にて在任中の誤診率が 14.2 パーセントと発表し、医学界のみならず社会に大きな衝撃を与えた。自律神経系の研究を行い、老人科と神経内科の創設、神経病理学の確立に尽力した。

作者と推定される中村研一（1895–1967）は、太平洋戦争中の戦争画、また時評や随筆で知られる洋画家。福岡に生まれ、1920（大正 9）年に東京美術学校西洋画科卒業。同年入隊し、翌年除隊となる。1920（大正 9）年の第二回帝展で初入選。1923（大正 12）年から 1928（昭和 3）年までフランスへ留学。1927（昭和 2）年にはサロン・ドートンヌ会員となる。日本芸術院会員、日展理事、光風会会員。

IMTJ_UH0000019

R



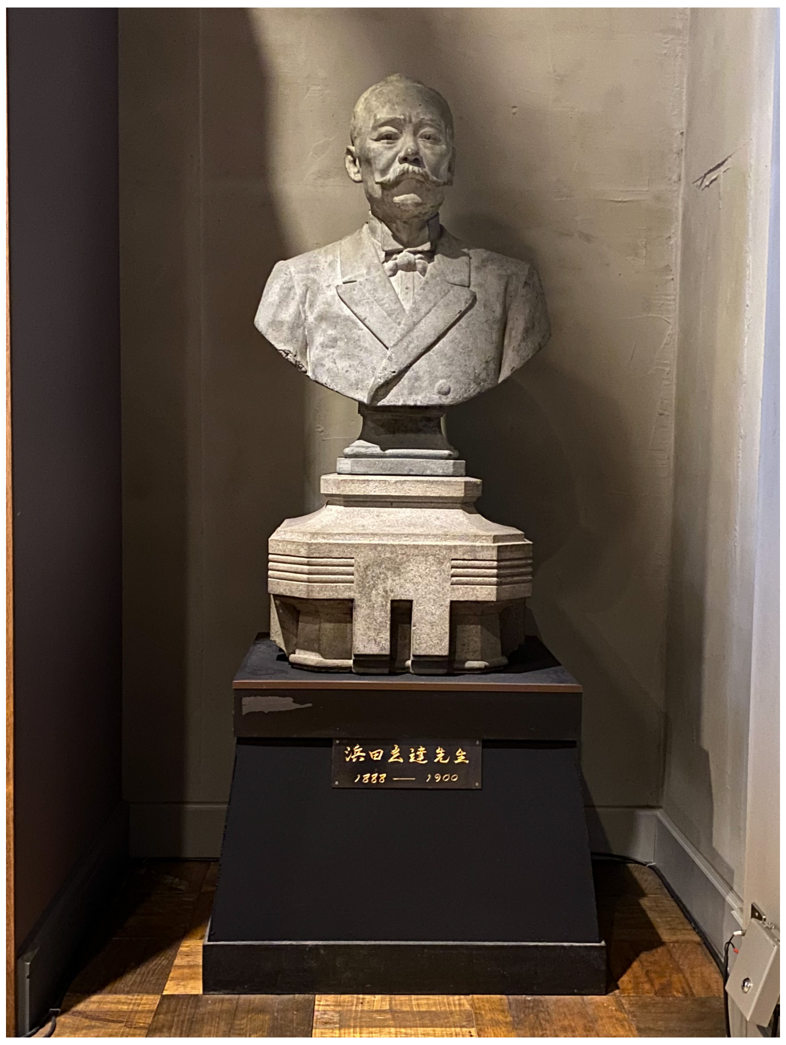
黒田清輝作「三浦謹之助像」

1920（大正 9）年／布に油彩／東京大学医学部附属病院旧蔵／
総合研究博物館研究部所蔵

像主の三浦謹之助（1864–1950）は陸奥国伊達郡（福島県）生まれ。1888（明治 21）年帝国大学医科大学を卒業、ベルツの助手となる。翌年ヨーロッパに遊学、パリでシャルコーに師事して神経病学を学び、1892（明治 25）年帰国。1895（明治 28）年から 1924（大正 13）年まで医科大学内科学教授。神経病学・新陳代謝病学・運動器官病学の研究で知られる。日本人による医学教育・内科学の確立に努めた。1929（昭和 4）年、東京同愛記念病院院長。

作者の黒田清輝（1866–1924）は、フランス留学時にアカデミー派の画家ラファエル・コランに師事した。帰国後、外光派として印象派の手法を交え、日本の洋画界を牽引した。『黒田清輝日記』の記述から、本作品の依頼は医学部教授岡田和一郎の仲介によることや、作品制作状況を確認できる。本作品は画面下部に下絵の線描が見られ、未完成であるが、黒田の体調不良が主な理由であると推察される。

IMTJ_UH0000006



長沼守敬作「濱田玄達像」

年代未詳（同型の銅像は 1908 年）／セメント製／
東京大学医学部附属病院旧蔵／総合研究博物館研究部所蔵

像主の濱田玄達（1854–1915）は肥後国出身。熊本の古城医学校で学んだ後、上京し、1871（明治 4）年に大学東校に入学。1880（明治 13）年、東京大学医学部を主席で卒業した。熊本県立医学校教頭、同病院長、同校校長を務め、1884（明治 17）年にドイツへ留学。ストラスブルク大学で産婦人科学を学ぶ。帰国後、1888（明治 21）年から 1900（明治 33）年まで帝国大学医科大学産婦人科学の二代教授を務めた。

作者の長沼守敬（1857–1942）は明治美術会、文展で活躍した彫刻家。1881（明治 14）年、イタリアに渡り、日本語教師を務める傍ら、ヴェネツィア王立美術学校で彫刻を学ぶ。1887（明治 20）年に帰国し、1889（明治 22）年、明治美術会の創設にただひとりの彫刻家として参画した。1897（明治 30）年に再度イタリアに渡り、翌年帰国すると東京美術学校教授となった。